

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2022 年 3 月

「神のみかたちを回復する」「死人はいつ復活するか (1)」「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」
「大根ポタージュ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「死人はいつ復活するか (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

神のみかたちを回復する

8

Restoring the Image of God

現代の真理

「黙示録 18 章の御使と
1888 年のメッセージ (II)」

40

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「大根ポタージュ」

46

レシピ

お話コーナー

「大いなる準備 (II)」

48

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2022 年 2 月 6 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page
48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

救い主の愛と方法

「もしあなたのあだが飢えているならば、パンを与えて食べさせ…よ」…（箴言 25:21）。

イエスの地上の一生は、この原則を具体的に表したものであった。救い主が天の家郷を後にされたのは、敵に命のパンを与えるためであった。ゆりかごから墓場まで、中傷と迫害の連続であったが、イエスからはただ、寛大な愛があらわされるばかりであった。…そしてカルバリーの十字架からは、幾世紀後の今日まで、ご自分を十字架にかける者たちのための祈りと、死にゆく強盗に与えられた望みの言葉とが伝わってくる。（祝福の山 87）

救い主がペテロを取り扱われた方法は、ペテロと彼の仲間たちにとって一つの教訓を含んでいた。ペテロは主を拒んだが、主が彼に対して抱いておられる愛は、決して揺るがなかった。そしてこの使徒が、み言葉を他の人々に伝える働きに携わるようになったとき、彼は罪を犯す者に、忍耐と同情と許しの愛をもって接しなければならなかった。彼は自分自身の弱さと失敗を思い起こして、キリストが彼を取り扱われたように、やさしく心を配って、羊や小羊たちを扱わねばならなかった。

人間は、自分自身が悪に染まってしまっているので、誘惑に陥っている者や過ちを犯している者にいたわりのない扱いをしがちである。…

ペテロは働きのはじめから終わりまでずっと、自分の手にゆだねられた羊の群れを忠実に見守り続け、こうして、救い主から与えられた責任にふさわしい者であることを証明した。彼は絶えずナザレのイエスをイスラエルの望み、人類の救い主としてあがめた。彼は自分自身の生涯を、大教師の訓練の下に置いた。…（患難から栄光へ下巻 214, 215）

地上の教会は間違いの多い人々から成り立っている。彼らは、忍耐強く、労を惜まず努力することによって訓練され…なければならない。神の民に対してへつらうのではなく、彼らを過酷に扱うのでもなくて、いのちのパンで彼らを養う牧師たち—すなわち忠実な羊飼—が求められている。こうした羊飼いは、自分たちの生活の中で、聖霊の改心させる力を日ごとの感じ、自分たちが働きかける人々に対して強い無我の愛を抱くのである。…

神のしもべは誤解され非難されるかもしれない。その時には次の言葉を思い出そう。「上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、憐れみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。義の実は、平和を作り出す人たちによって、平和のうちにまかれるものである」（ヤコブ 3:17, 18）。（患難から栄光へ下巻 225, 226）

第27課 死人はいつ復活するか (I)

復活は無い？

古代より死者の状態をめぐる論争がなされてきました。キリストの時代、ヘブル人一派であるサドカイ人は、復活を信じませんでした。イエスは彼らに答えて言われました、「また、死人の復活については、神があなたがたに言われた言葉を讀んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と書いてある。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である」(マタイ 22:31, 32)。

この同じ偽りの概念を、今日においても、多くの懷疑者たちが教えています。「死後、全てが終わる。復活もなく、刑罰もなく、報いもない」。しかし、主はサドカイ人に対するよりも、わたしたちの世代に対してさらにご自分のみ言葉を明らかにしておられます。

キリスト時代前の復活

聖書は創造の時からモーセの時まで、死が完全に人類に対して支配力を持っていたことを告げています。善人も悪人も死ななければなりません。モーセ以前においては、復活した人は一人もいませんでした。パウロは次のように述べています。「しかし、アダムからモーセまでの間においても、アダムの違反と同じような罪を犯さなかった者も、死の支配を免れなかった。このアダムは、きたるべき者の型である」(ローマ 5:14)。

聖書の証拠は、モーセが死からよみがえった最初の人であるという記述を強化しています。モーセはネボ山で死にましたが、だれも彼の墓を見つけることはできませんでした。主がご自分の忠実なしもべを迎えに来られたときに、悪魔はイエスに対して反論しました。なぜなら、悪魔は、自分が墓の中にいるモーセに対して支配権を持っていると信じたからです。「御使のかしらミカエルは、モーセの死体について悪魔と論じ争った時、相手をののしりさばくことはあえてせず、ただ、

『主がおまえを戒めて下さるように』と言っただけであった。」(ユダ9節)。

モーセはよみがえらされて、天へ連れていかれました。キリストが変貌の山にいたとき、モーセとエリヤの両者がイエスと共にいたことが、ペテロ、ヤコブ、ヨハネによって目撃されました。「六日ののち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。」(マタイ 17:1-3)。

旧約聖書においては、他の復活もまた記録されています。ザレパテのやもめの息子(列王記上 17:17-23)、シュネムの女の息子(列王記下 4:32-35)、エリシヤの骨を触った男(列王記下 13:21)です。

他の二人は、死を経験することなく、天へ移されたことが記録されています。エノクとエリヤです(ヘブル 11:5、列王記下 2:11)。死から復活したモーセとは異なり、これらの二人は、死を見ることなく天へ移されました。

新約聖書において

数多くの奇跡の中で、イエスは何名かを死からよみがえらせました。ナインのやもめの息子(ルカ 7:11,15)、ヤイロの娘(ルカ 8:41, 42, 49-55)、ラザロ(ヨハネ 11:43, 44)、および彼の復活後の多数の聖徒たちです。(マタイ 27:52, 53)。イエスの昇天後、使徒たちが引き続き奇跡を行い、また死人をよみがえらせました。タビタ(使徒行伝 9:40,41)、ユテコ(使徒行伝 20:10, 12)です。

将来において、死人は復活するだろうか？

旧約聖書の預言者たちは、将来において、復活が起こることを信じていました。彼らの言葉は、次のように述べています。

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう」(ヨブ 19:25, 26)。

「あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ、さめて喜ぶうたえ。あなたの露は光の露であって、それを亡霊の国の上に降らされるからである」(イザヤ 26:19)。

「わたしは彼らを陰府の力から、あがなうことがあろうか。彼らを死から、あがなうことがあろうか。死よ、おまえの災はどこにあるのか。陰府よ、おまえの滅びはどこにあるのか。あわれみは、わたしの目から隠されている」(ホセア 13:14)。

使徒たちも同様に死人の復活を信じて、次のように教えました。

「もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかつたであろう。もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなたがたの信仰もまたむなし。すると、わたしたちは神にそむく偽証人にさえなるわけだ。なぜなら、万一死人がよみがえらないとしたら、わたしたちは神が実際よみがえらせなかつたはずのキリストを、よみがえらせたと言って、神に反するあかしを立てたことになるからである。もし死人がよみがえらないなら、キリストもよみがえらなかつたであろう。もしキリストがよみがえらなかつたとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになる。そうだとすると、キリストにあつて眠つた者たちは、滅んでしまったのである。」(コリント第一 15:13-18)。

「兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあつて眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。」(テサロニケ第一 4:13,14)。

「なんとかして死人のうちの復活に達したいのである。」(ピリピ 3:11)。

将来における復活

将来においては、3種類の異なる復活が生じることを聖書は教えています。部分的な復活、全般的な第一の復活、および全般的な第二の復活です。

「部分的」な復活は、イエスが来られる前に神の御声によって起こります。「第一」の復活は、キリストが再臨し、眠っている聖徒たちを呼ばれるときに起こります。「第二」の復活は、千年期が終わる時に成就します。

部分的な復活

「また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そ

のうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。」(ダニエル 12:2)。

この時には、すべての人々がよみがえるわけではなく、義人の中のある人々と、悪人の中のある人々だけが復活します。そのため、この復活は「部分的」な復活と言及されています。この復活は、ヤコブの悩み、すなわち7つの災いのあいだに起こります。この復活は、イエスが来られる前に起こります。イエスが来られるときに、なお地上に生きているこの特別な義人たちは、このお方を待つようになります。彼らは初穂と呼ばれています。そのため、部分的な復活でよみがえらせる人々は、神に対する「初穂」の数を満たすようになるのです。「... 彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である」(黙示録 14:4)。

永遠の恥辱のためによみがえった悪人たちとは、イエスに有罪を宣告し、十字架につけた人々です。

「しかし、イエスは黙っていて、何もお答えにならなかった。大祭司は再び聞きただして言った、『あなたは、ほむべき者の子、キリストであるか』。イエスは言われた、『わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう。』」(マルコ 14:61,62)。

「見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかり、アメン。」(黙示録 1:7)。

イエスに死刑を宣告したユダヤ人の指導者たち、イエスを刺しとおした人々、および各時代を通じて神の民を最も迫害した人々は、キリストが天の雲に乗ってこられるのを見るために前もってよみがえらされます。そのために、彼らは部分的な復活において、悩みの時に墓から出てくるのです。

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



3月

きれいな新しい心を求めて

わたしの献身はどれほど深いか

「人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル記上 16:7)

職業や専門職が何であろうと、一人ひとりが神のみ事業を自分の最も重要な関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために自分のタラントを用いるだけでなく、この目的のために自分の能力を培わなければならない。……

神の栄光と魂の益のために真理を前進させようと努める者は、人の尊敬や自分自身の安楽、興味、名誉に関係なく—そのような人は学識や雄弁がなくても高く評価されるべきである。彼は神の貴族である。……

審判を行う者が席に着き、かずかずの書き物が開かれるとき、多くの驚くべき事柄が発覚するであろう。そのとき人々は人間の目や有限な判断に映っていたようには映らない。秘密の罪がすべての者に公然とあらわにされる。心の暗い部屋に隠されていた動機や意図が明らかにされる。外面的には神をあがめ、人に善をなす願いだけであると言われていたところに、入念に計画していた野心、利己的な目的が見える。そのとき何が暴露されるであろうか。純潔な動機と真実で気高い目的の人々が、今は軽視され、無視され、中傷され、嫌われるかもしれないが、そのとき彼らはあるがままに現れ、神の賞賛で栄誉を受ける。偽善的で野心的な教師は、今は人に誉めそやされ、高められているかもしれないが、心の秘密を知っておられる神は人をだますような覆いをはぎとり、彼らをおあるがままに見せる。どの偽善者も仮面をはがされ、中傷されたどの信者も義認される。……

キリストのみ名をとえ、このお方の記章を身につけている者がみなキリストのものというわけではない。イエスは「わたしに従ってきなさい」と仰せになる。罪深い習慣にふけり、世の軽薄な言動を楽しむ者はキリストの子であろうか。わたしたちは彼らの歩む道に救い主の足跡を見ることができようか。……

わたしたちご自分の意志ではなく、御父の意志をなそうと努めるお方の歩みに従っているであろうか。もしわたしたちにキリストの御霊がなければ、わたしたちはこのお方のものではない。わたしたちは二人の主人に仕えることはできない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884年1月1日)

3月2日

わたしたちの時代の徴候

「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。」(創世記 6:5)

ノアの時代の目立った特徴は住民の猛烈な名利欲の強さであった。彼らは食べ、飲み、植え、建て、めとり、とつぎなどしていた。これらのことはそれ自体罪ではなく、律法にかなっていたが、不節制なまで過度にふけたのである。食欲は健康と理性を犠牲にしてほしいままにされた。自分たちの罪深い欲望にふけり続けるこのことが彼らを墮落させ、彼らのもとに地を汚した。増大したその同じ悪が今日わたしたちの世界に存在する。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1878年1月3日)

ノアは洪水前の人々に与えるようにとメッセージを与えられた。しかし彼らは彼の警告をさげすんだ。そのように今日神が世に与えるようにと送っておられるメッセージは拒まれる。しかしこのメッセージは与えられなければならない。神の民はその宣布のためにほかのあらゆる関心を二次的にしなければならない。……

キリストは利己的な世界を、利己心の確かな結果から救うために死なれた。このお方は全世界のために愛とあわれみと同情のうちにご自分の心を開かれ、ご自分のところに来て、完全で無償の許しを受けるようにと墮落した人類をお招きになる。このお方の品性は、天の宇宙の前に、いつさいの利己心のしみなく立っている。このお方はご自身の心のうちに宿っている慈悲心を男女にもたらすために、完全な犠牲を払われた。キリストが彼らを愛して祈られるのと同じように、人々が自分たちの同胞を愛するようにと彼らを導き、その思いと心を印象づけるためにご自分の聖霊をお送りになった。……

真理を信じ、世のために帯びるようにと神がわたしたちに与えておられるメッセージの重要さに気がついていると公言するすべての者にわたしは嘆願する。次々と町の中で自己犠牲の働きがなされねばならず、州につぐ州が照らされなければならない。真理が燃える明かりのように進んでいくべきである。神と神が遣わされたイエス・キリストを知っていると公言する者は、世の冷たく利己的な行為に陥ってはならない。彼らの熱意は消えてはならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902年1月7日)

自己欺瞞からの救出

「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。「主であるわたしは心を探り、思いを試みる。おのおのに、その道にしたがい、その行いの実によって報いをするためである。」(エレミヤ 17:9,10)

わたしたちの時代に広くゆきわたっている精神は、不信心と背教の精神、すなわち真理の知識ゆえに啓蒙されているかのようででありながら、その実はもっとも盲目的な憶測のうちにある精神である。神のはっきりとしたみ言葉とこのお方の御霊の証に反対する精神がある。神の表された知恵にまさって単なる人間の理論を偶像崇拜的に高める精神がある。(教会への証 5 卷 79)

わたしたちは真理を聞いて信じることができるが、もしわたしたちがキリストのみ言葉を日々実践し行う者でなければ、砂の上に家を建てた愚かな者と同じである。(レビュー・アソド・ヘルド 1885 年 12 月 22 日)

墮落した人間がキリストのご品性をはっきりと理解すればするほど、自分自身を信頼しなくなり、しみのない贖い主の生涯を特徴づけたそれらのことと比べて自分の働きがますます不完全に思えるようになる。(ライフ・スケッチ 84)

神のご品性を表すために、またわたしたちが見せかけのキリスト教によって自分自身や教会や世を欺かないために、個人的に神と親しくならなければならない。もしわたしたちが神と親しい交わりを持っているなら、会衆に一度も説教をしたことがなくてもこのお方の聖職者である。(教会への証 6 卷 13)

もしわたしたちがキリストを代表するものであるなら、キリストのみ働きを行う。わたしたちのだれも、遺伝として持っており、教育で強められた品性のゆがみ、キリスト教徒に倣わない特性を自分の宗教生活に持ち込むことができると考えて、自分を欺かないようにしましょう。贖いの計画を通じて、神は一つ一つの罪深い特性を抑え、どれほど強くてもどの誘惑にも抵抗する方法を備えておられる。……

わたしたちが神のみ働きの中で、何も成し遂げられなくなった理由は、良心に訴えるにあたってイエスからの霊と命をもっと必要としているということである。わたしたち自身のかたくなな心がこのお方の愛によって溶かされなければならない。これだけが無関心という魔力を破り、魂に警報を発し、人々に自分がどこに立っているかをよく考えさせることができるのである。(レビュー・アソド・ヘルド 1885 年 12 月 22 日)

3月4日

不信仰の危険

「兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。」(ヘブル 3:12)

真の道德上の価値は、悪いことを考えたり、話したりすることによって、あるいは他人を軽視することによって、自らの立場を確立しようとはしない。すべて不信仰を伴ったうらやみ、妬み、悪口はすべて神の子らから捨てさるなければならない。(ビュー・アンド・ヘラルド 1897年9月4日)

わたしたちはキリストの時代の民よりも、今日はるかに多くの危険の中にいる。主はご自分が任じられた使者を通して語っておられるが、同じ不信仰が現わされている。(エルン・G・ワイル 1888年原稿 398)

すべての者に働きの中で自己に仕え、自己を喜ばせることをどのように織り込んでいるかに気づかせよう。もし彼らがこれを行うなら、神を辱めるので、このお方はご自分のみ名の栄光のために彼らをお用いになることができない。試練がわたしたちを試すためにおとずれるとき、またわたしたちが自分の前に繁栄と快適さが増し加わるどころか、かえってこれらが減じていくと思われるとき、またすべての人の側で犠牲を要求するようなプレッシャーがあるとき、わたしたちはいかにして、これから自分たちは苦難の時を迎え、万事は粉みじんになり、そして前方には心の痛む問題があるのだというサタンのほめかしを受けとめるであろうか。もしわたしたちがこれらの暗示に耳を傾けるなら、魂に盲目をもたらす神への不信仰が沸き起こる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1898年9月27日)

わたしたちの性質は純潔、聖なるものでなければならない。わたしたちは、キリストがわたしたちの魂に反映しているご自分のかたちを喜びをもって見ることができようになるように、このお方の思いを持たなければならない。わたしたちはだれ一人として、神がわたしたちになってほしいと願われる者にも、わたしたちがなりえる者にも、また、このお方のみ言葉がわたしたちになるよう要求している者にもなっていない。わたしたちを神から遠ざけているのはわたしたちの不信仰である。……エノク、ヨセフ、ダニエルは無限の力強さに寄り頼んでいた。これが今日クリスチャンにとって追い求めるのに唯一安全な進路である。……

これらの目立つ人々の生涯はキリストと共に神のうちに隠されていた。彼らは、不信心と偶像礼拝に接触してもたらされた不信心のただ中で神に忠誠を尽し、腐敗のただ中で純潔であり、信仰深く熱烈であった。彼らは信仰によって、純潔で気高い品性の発達に都合の良い特性だけを自分に集めた。わたしたちもこのようにできる。わたしたちの立場がどうであろうと、わたしたちの環境がどれほど嫌悪感を起こさせようと魅力的なものであろうと、信仰はそのすべての上に到達することができ聖霊を見出すことができる。(同上 1885年9月1日)

内から汚れる

「さらに言われた、『人から出て来るもの、それが人をけがすのである。すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである。』」（マルコ 7:20-23）

あなたはいつも兄弟のあら探しをしては話している。そして、あなたが他人のふるまいに異議を唱えている間、あなた自身の心の中に有毒な雑草がもうもうと生い茂って繁茂し、深い根を下ろしてきた。生えてきたこれらの苦々しい根は、多くの人を汚し、あなたがそれらをみとめて、抜き去らないかぎりもっと多くの人を汚す。……

〔B兄弟が〕真理を悟る前に、彼の手はだれかれとなく敵対しているように見えた。彼の闘争的な精神は、挑発のたびに強められ、彼の自尊心が傷つけられるのであった。彼は難しい人であり、問題に踏み入れ、問題を起こしていた。神の真理が彼のうちで改革の働きをした。神は彼をお受け入れになり、このお方の手は彼をお支えになった。しかしB兄弟が自分を捧げる精神を失ってから、他の人と不和である彼の古い不穏な精神が主導権を得ようとし、強められてきた。彼が自己に死に、神の御前に自分の高慢な心をへりくだらせるとき、彼は自分の強さがどれほど弱いか分かる。彼は天の支援の必要を感じて、「おお、神よ、あなたの前に汚れたもの、汚れたもの」と叫ぶ。自慢している彼の誇りはすべて終わりを告げる。

道徳的暗闇が真理と徳に勝利をしている、この嵐の世にある人生はクリスチャンにとって絶え間ない闘争となる。彼は武具をまとい続けなければならないことが分かる。なぜなら彼は決して疲れることのない勢力、決して眠ることのない敵と戦わなければならないからである。わたしたちは自分が数え切れないほどの誘惑に取り囲まれているのが分かり、それらに打ち勝つためにキリストのうちにある力強さを見出さなければならないからである。さもないとそれらに打ち負かされてしまう。（教会への証 3 巻 452,453）

完全な変化が必要である。ある者はわたしたちの型、パターンであるカルパリーの苦しんでいるお方を見失ってしまう。わたしたちは、このお方の奉仕の中で、この世における安逸、名誉、偉大さを期待する必要はない。なぜなら天の至高者であるお方がそれをお受けにならなかったからである。（同上 2 巻 516）

3月6日

心を頑なにするのはだれか

「主がパロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの人々を去らせなかった。」(出エジプト 10:20)

わたしたちは、主がパロの心を頑なにされたと言われている。王が主の言葉を聞くことを繰り返し拒んだことによって、より直接的で、より切迫した、より強力なメッセージが呼び起こされた。光を拒むごとに主は、より顕著にご自分の権威の表れを示された。しかし王の強情は、天の神の権威と大能の新しい証拠が与えられるたびに増し加わり、ついに聖なる矢筒からの憐れみの矢は尽きてしまった。それからその人は自分自身の執拗な反抗によって、全く頑なにってしまった。王は強情の種をまき、まさにそれを自分の品性の中で収穫したのであった。主は彼を納得させるために、これ以上何もおできにならなかった。なぜなら彼は強情と偏見のバリエードで囲われ、そこに聖霊は彼の心の入り口を見つけることができなかったからである。パロは彼自身の不信仰と心の強情さにそのままに引き渡された。不信心は不信心を生み出す。パロが神の権威の最初の現われに際し、心を頑なにしたとき、神の権威に二度目に拒むのをもっと容易にした。自尊心と強情が彼をとりこにし、彼に神の警告を認めさせなかった。一度信じないという自分の決心を表明した後で変更するのは、パロの性向に反した。

パロが行ったことは、猶予期間が閉じるまで人々によって何度も何度も繰り返されるであろう。神はだれをも滅ぼされない。しかし人が罪の自覚を押し殺すとき、彼が証拠に背を向けるとき、彼は不信仰の種をまき、自分がまいたものを刈り取る。パロの場合のように、彼の場合もそうなる。もっとはっきりとした光が真理を照らすとき、彼はますます抵抗して真理に立ち向かい、天から増し加わる光を拒むごとに、心を頑なにする働きは続いていく。わたしたちは、単純さと真理のうちに、人々が自分自身の魂を破壊する道に関して頑固な者に話したい。(レビュー・ワールド 1891 年 2 月 17 日)

わたしたちは鋭敏な聖化された知覚が必要である。この知覚は互いに批判し非難するのに用いるのではなく、時のしるしを識別するために用いるべきである。わたしたちは信仰の破船に陥らないように、不斷の努力で自分の心を守るべきである。(教会への証 8 巻 101)

まいたものを刈り取る

「しかしパロはこんどもまた、その心をかたくなにして民を去らせなかった。」(出エジプト 8:32)

主は、わたしたちの過ちが第二の性質になる前に、それらを正す機会をわたしたちが持つことができるようにと、わたしたちに警告、勧告、叱責をお送りになる。しかし、もしわたしたちが正されるのを拒むなら、神は、わたしたち自身の一連の行動の傾向にさからって弱めるために介入なさることはない。このお方は、まかれた種が発芽し、実を結ぶことがないようにと奇跡を行うことはなさらない。不信心な大胆さを表す人、あるいは聖なる真理に反応しない無関心を示す人は、自分自身がまいた収穫を刈り取るしかない。多くの人の経験がそのようなものである。彼らはかつて彼らの魂そのものを揺り動かした真理を平然と聞く。彼らは真理に対する無視と無関心と反抗をまく。であるから、彼らが刈り取る収穫も同様である。氷の冷たさ、鉄の硬さ、突き通すことのできない、感受性のない岩の性質—これらすべてはクリスチャンであると公言する多くの者の品性の中によく似たものを見出す。このように、主がパロの心を頑なにされたのであった。神はモーセの口を通して、神の力の最も際立った証拠を与えつつ、エジプトの王に語られた。しかし王は彼に悔い改めをもたらしたはずの光を頑固に拒んだ。神は反抗的な王の心を頑なにするために超自然的な力を送られたのではなく、パロが真理を拒んだときに聖霊は取り去られ、彼が選んだ暗闇と不信仰に取り残されたのである。

御霊の感化力を頑固に拒むことによって、人は自分自身を神から断ち切る。このお方は彼らの思いを啓発するためにこれ以上影響力のある代理人を備えてはおられない。神のみ旨の啓示は彼らの不信仰のゆえに彼らに届くことができない。
.....

わたしたちはみな肉か御霊のどちらかに種をまいている。そしてわたしたちは自分がまいた種を刈り取るのである。(レ・ユー・アンド・ヘルド 1882 年 6 月 20 日)

あなたが永遠の関心事に注意を払うとき、身を起こし、よい種をまき始めなさい。あなたがまくものをあなたは刈り取る。収穫—わたしたちがまいたものを刈り取る大いなる収穫の時は近い。作物に失敗はない。収穫は確かである。(教会への証 2 卷 31)

3月8日

純潔な思想だけを保つ

「『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」(マタイ 5:27,28)

立派なタラントを持ちながら、不正にサタンへの奉仕に自らを捧げている者が多い。わたしは、世から出てきて闇のわざから離れていると公言する人々にどのような警告を与えることができるであろうか。また、神によってその律法の保管者としていただきながら、全能者の面前で見たところは繁っている枝をこれ見よがしに誇示してはいるが、神の栄光のために実を結ばないうぬぼれたイチジクの木のような人々に、どのような警告を与えることができるであろうか。彼らの多くは不純な思想、罪深い想像、清められていない欲望、卑劣な情欲を大切にしている。……

キリストの大使としてわたしは、不純に近づくことを即座に不快に思い、不純なほめかしを吹き込む人々の社交を捨てるようにと現代の真理を公言するあなたに懇願する。これらの神を冒瀆している罪を最も激しい憎しみで嫌いなさい。会話においてすら、思いがそのような水路を通る人々から逃れなさい。「おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである」(マタイ 12:34)。

これらの神を冒瀆している罪を実践する者が世に着々と増えており、わたしたちの教会の中に割り込んでくるとき、彼らに場所を与えないようにと、わたしはあなたに警告する。キリストに従う者であると公言するが、彼は人のかたちをしたサタンである。彼は自分の主人にもっとよく奉仕することができるように、天の自由を借りている。あなたは一瞬といえども不純な覆われた暗示に場所を与えてはならない。なぜなら不純な水はそれが通る水路を汚すように、これすら魂にしみをつけるからである。

罪と共に魂を汚すよりは、貧困、非難、友との分離、どのような苦しみを選びなさい。不名誉、あるいは神の律法の違反よりも前に死がクリスチャン一人びとりの座右の銘であるべきである。改革者であると公言し、神のみ言葉の最も厳粛かつ精鍊する真理を大事にしている民として、わたしたちはその標準を現在あるよりもはるかに高く掲げなければならない。(教会への証 5 巻 146,147)

誘惑から守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

〔神の律法は〕人の道徳的な性質の奥深く密かなところにまで及び、人の目や知識からは隠されてきた事に光の洪水をあびせる。手がなしえること、あるいは舌の語ること、すなわち外面的な生活が示し得ることは、人の道徳上の品性を不完全に表すにすぎない。(パウロの生涯からのスケッチ 241,242)

聖なる見張り人はわたしたちの生活の一つ一つの働きと行動を記し、行動するようにと促す動機を一つ一つ量られる。ベルシャザルの宮殿の壁に文字を書いたその手は、あらゆるところに「神はここにおる」と書いておられる。神はどの場所にもおられる。わたしたちのすべての言葉、すべての計画、すべての秘密の動機は無限の正義と真理のはかりで計られている。……

主がお読みにならない動機は心の中にはない。このお方はどの目的、どの考えもお読みになる。(上を見上げて 207)

心は天の恵みによって新たにされるのでなければ、生活のきよめを求めても無益である。キリストの恵みとは関係なしに、気高く正しい品性を築こうとする者は、くずれる砂の上に家を建てているのである。それは、激しい誘惑のあらしが襲ってくると、倒れるにきまっている。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」というダビデの祈りが、すべての魂の祈りでなければならない(詩篇 51:10)。天の賜物を受けてはじめて、われわれは「信仰により神の御力に守られ」ながら完全に向かって進むことができる(ペテロ第一 1:5)。

だが、誘惑に抵抗するためにわれわれにもしななければならないことがある。サタンの策略の犠牲になりたくない者は、魂の道をよく守り、不純な思いを起こさせるものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。(人類のあけぼの下巻 74)

愛情を生き生きと保ち、他人の心の中に存在する善に敏感でいる状態に心を保つには、特別な見張りを要する。もしわたしたちがこの点を見張らないなら、サタンはわたしたちの魂に自分のねたみを入れる。彼は、わたしたちが兄弟の行動をゆがんだ光の中で見るようにと、わたしたちの目の前に彼の眼鏡を置く。わたしたちは、兄弟を批判的に見る代わりに、自分たちの目を内に向け、自分自身の品性の嫌な特性を発見する用意ができていべきである。(レビュー・アンド・パラルド 1891年2月24日)

3月10日

あなたの宝はどこにあるか

「あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:21)

利己心と世を愛する心のゆえに、神は忘れられ、多くの者に魂の不毛があり、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」と叫ぶ。主はご自分の民を試し、彼らが公言するご自分への愛の深さをテストするために、彼らに財産を貸し与えられた。ある者はこのお方を手離し、自分たちの地上の財産を減らして、犠牲によってこのお方と契約を結ぶよりは、自分たちの天の宝をあきらめてしまう。このお方は犠牲を払うようにと呼んでおられる。しかし、世への愛着が彼らの耳を閉ざし、彼らは聞かないのである……

大資産を得ていながら、なお自分の所有に加えている人々は、はるかに遅れを取っている。彼らは自分たちがないうことに比べると、ほとんど何もしていない。彼らは出し惜しみ、神から盗んでいる。なぜなら、彼らは欠乏するのではないかと恐れるからである。彼らはあえて神に信頼しようとしない。これこそ、わたしたちが民としてあまりにも病気がちで、あまりにも多くの人が墓に下っている理由の一つである。貪欲がわたしたちの間にある。世を愛する人々、また雇っている労働者に出し惜しむ人々が、わたしたちの間にいる。この世では何も持っていない人々、貧しくて自分の労働力に頼っている人々は、厳しく不正に扱われてきた。世を愛する人々は、硬い顔とさらに硬い心をもって、厳しい労苦によってかせいだわずかな金額をしゅう支払ってきた。彼らは、自分たちがその僕だと公言している自分たちの主人もまったく同様に扱うのである。彼らは、この同じようにしゅうと神のさいせん箱に入れるのである。譬の中の男は自分の財産を捧げるところがなかったのも、主は彼の無益な生涯を短くされた。このお方は多くの人々も同様に扱われる。この墮落した時代に、世的に利己的にならないよう守ることはなんと難しいことであろう。わたしたちのすべての憐れみの与え主に感謝しなくなるのは、なんとたやすいことであろう。勤勉のかぎりまで、魂を守るために、大いなる警戒と、また多くの祈りが必要とされている。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。(教会への証 2 巻 198,199)

幸福を求めている非常に多くの者が、自分の望みにおいて失望するであろう。なぜなら、それを悪い求め方をするからである。真の幸福は、利己的な満足の内ではなく、義務の道において見出されるのである。(ビュー・アズ・ハルド 1885 年 9 月 1 日)

より良い言葉を取り出す

「心からあふれることを、口が語るものである。善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。」(マタイ 12:34,35)

自分の信仰の足りなさ、悲しみ、苦しみについて語るのをやめなさい。誘惑者はそういう言葉を聞くのを喜ぶ。陰鬱な話をするのはサタンをあがめていることになる。わたしたちを征服せんとするサタンの大きな力について長く語ったり、考えたりすべきではない。サタンの力について語っているうちに、その手中に陥ることがよくある。その代りに、ご自身のみ心にわたしたちの関心をすべて結びつけられる神の大きな力について語ろう。(ミストリー・オブ・ヒーリング 230)

人は自分たちの心を神に捧げた後ですら、時々宗教的な主題について非常に控えめ、臆病、神経過敏であるが、それは彼らが持つことのできるはずの力強さを受けないからである。わたしたちは現世の関心事を差し控えることなく語る。そうであればなぜ自分たちの永遠の関心事を語るのにそれほど気が進まないのであろうか。すべての心が聖なる大胆さを吹き込まれると良いのに。わたしたちはみな勇気と不屈の精神と信仰をもって人々の前にイエスを掲げることができると良いのだが。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 3 月 16 日)

あなたの兄弟や隣人があなたに会いに来るとき、イエスのすばらしい愛について語りなさい。失われた人間のためのこのお方のとりなしを喜びなさい。あなたの友に、彼らがキリストの血で買い取られているがゆえに、あなたが彼らの魂のために持っている愛を語りなさい。……あなたの巡礼仲間が主にあって喜ぶことができるように、義の太陽の光線が彼らの上に輝くようにしなさい。あなたはこれを家庭の伝道活動、近隣の伝道活動、教会での伝道活動で行うことができる。だれも審判の時に立って、「あなたはなぜこの真理についてわたしに言わなかったのか。なぜわたしの魂を気にかけなかったのか。なぜあなたは世と世の娯楽を非常に愛して、それらは悪いものの筈がないという考えをわたしに印象づけたのか」と言うことができないように。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 8 月 28 日)

益にならないことを語るのを減らし、命の御言、イエスのことをもっと多く語ることは、魂の内に霊的啓発と大いなる喜びを与える。(原稿用紙 11 巻 207)

3月12日

清い水は清い泉から

「泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。わたしの兄弟たちよ。いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができるか。塩水も、甘い水を出すことはできない。」(ヤコブ 3:11,12)

みだらな冗談、悪ふざけ、軽率、軽薄な精神は、罪人にとってつまずきの石であり、聖化されていない心の傾向に負ける者にとってはなお悪いつまずきの石である。……もしだれかが一言でもわたしたちの主によって語られた軽率な言葉や、あるいはこのお方のご品性に何らかの軽薄さを指摘できるなら、その人は自分自身にも軽率さと軽薄さが許されると感じてよい。この精神はクリスチャンの精神ではない。なぜならクリスチャンというのはキリストのようであるということである。イエスは完全な型であるから、わたしたちはこのお方の模範を真似るべきである。……

みだらな冗談や軽率で軽薄な発言をする癖のある者が、にわかに威厳をもって、聖なる講壇に登場することもある。彼らはただちにまじめな主題の熟考へと移り、そして自分たちの聴衆に、かつて死すべき人間に委ねられた最も重要でテストとなる真理を示すことができるかもしれない。しかし、彼らが感化を与えた同労者、彼らと共に不注意な冗談に加わっていた働き人の仲間たちは、それほどすぐに自分たちの考えの流れを変えることはできないであろう。彼らは非難されていると感じ、彼らの思いは混乱する。そして天来の主題を熟考し、キリスト、しかも十字架につけられたキリストを説教するのに適さなくなる。

笑いを引き起こすようなしゃれたことを言う気質は、み事業の必要を考えると、それが実行委員会であろうと、理事会であろうと、そのほか仕事上の会議であろうと、キリストのものではない。この時機をわきまえない陽気さは、道徳力を低下させる傾向がある。……〔神は〕ご自分の民が品性の堅固さ、力強さ、堅実さを示し、快活で幸福な希望に満ちた気質を表すときにお喜びになる。(ビュー・アンド・ハルド 1884 年 6 月 10 日)

もしあなたがだれかを不当に取り扱ったなら、彼のところへすぐに行き、彼の手を取って「考えや言葉や行動で、あなたを傷つけたことをお許してください」と言うべきである。天はそのような光景を是認をもってご覧になる。わたしたちはこの温かみのない、冷たいパリサイ主義をすべて打ち砕きたい。(同上 1888 年 8 月 28 日)

告白はより純粋な信仰をもたらす

「もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はお聞きにならないであろう。」
(詩篇 66:18)

わたしたちは神のあわれみを受ける資格はないが、自分を神にささげるとき、神は受け入れてくださる。このお方は神に従う者のために働き、また、その人々を通じて働かれるのである。しかし、神のみ言葉に従って生活するときに初めてわたしたちはその約束の成就を主張できる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 204)

神の民は思いやりをもって動かなければならない。彼らは知っている罪はみな告白するまで満足すべきではない。それからイエスがそれらを受け入れてくださることを信じるのは、彼らの特権であり義務である。彼らは他の人々が暗闇を貫いて押し進み、彼らが楽しむために勝利を得てくれるのを待つてはならない。そのような楽しみが続くのは、集会が閉じるまでである。しかし神には感情ではなく原則に従って仕えなければならぬ。朝に夕に、あなた自身の家族の中で、自分自身のために勝利を得なさい。あなたの日々の労働をこれから離してはならない。祈る時間を取りなさい。そして祈るとき神があなたの祈りを聞いておられると信じなさい。祈りの混じった信仰を持ちなさい。あなたはいつもすぐに答えがあると感じないかもしれないが、それは信仰が試みられているときである。あなたが神に信頼しているかどうか、あなたに生きた不変の信仰があるかどうかを見るために、あなたは試されている。「あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さるであろう」(テサロニケ第一 5:24)。信仰の狭い板の上を歩きなさい。ことごとく主のみ約束に信頼しなさい。暗闇の中で神を信頼しなさい。その時こそ信仰を持つべきである。しかしあなたはしばしば感情にあなたを支配させる。自分が神の御霊によって慰められていると感じないとき、あなたは自分自身のなかに価値を探し、見つけることができないので失望する。あなたはイエス、尊いイエスを十分信頼していない。このお方の価値をすべて、すべてとしていない。あなたができる最上のことは神の好意に値しない。あなたを救うのはイエスの価値、あなたを清めるのはこのお方の血である。しかしあなたになすべき努力がある。あなたの分としてできることをあなたはしなければならぬ。熱心になって悔い改め、それから信じなさい。

信仰と感情を混同してはならない。それらは別のものである。信仰は働かせるべきわたしたちのものである。わたしたちはこの信仰を働かせ続けなければならない。信じなさい。信じなさい。あなたの信仰に祝福をつかませなさい。そうすればそれはあなたのものである。あなたの感情は、この信仰とは何の関係もない。(教会への証 5 卷 167)

3月14日

耳ざわりの良い預言によってテストされる

「あなたがたのうちに預言者または夢みる者が起って、しるしや奇跡を示し、あなたに告げるそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知らなかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と言っても、あなたはその預言者または夢みる者の言葉に聞き従ってはならない。あなたがたの神、主はあなたがたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたがたを試みられるからである。」(申命記 13:1～3)

神の民はテストされ試される。はっきりとした指摘された証がこの働きの中で重要な部分を果たさなければならない。暗闇と危難のこの時代に、だれが真理全体に立ち、これを話すことができるであろうか。教師の大部分は耳ざわりの良いことを預言する。彼らは神の民だと公言している人々の現在の状態に危機感をおぼえる特別な理由をみとめない。民は眠っており、教師も眠っている。彼らは平和、平和と叫び、聞く大勢の者は彼らの報告を信じて安心する。これにより、忠実な教師が、鋭く忠実な証をになう必要性がさらに大きくなる。現代はごしごし洗って不純物を除くとき、闘争と試練のときである。穀物がふるいの中でふるわれるように、イスラエルの家はふるわれている。(レ'ユ・アソ'・ヘラルド' 1861 年 11 月 26 日)

神はご自分の民を目覚めさせられる。もし他の方法が失敗するなら、異端信仰が彼らの中に入り込み、麦からもみ殻を分けつつ彼らを振るう。(教会への証 5 巻 707)

罪を覆い隠し、それが違反者の思いになるべく悪く見えないように努める者は、偽りの預言者の働きをしているのであって、そのような行動に続いて神の報復の怒りを予期することができる。主は墮落した人間の願いにご自分の方法を適応なさることは決してない。(教会への証 4 巻 185)

わたしたちはだれが主の側にいるかを知らなければならないその時が来ている。神の御事業は即座の行動を命じているので、今自分たちの最も小さなテストに耐えることのできない者は、龍の軍団が神の戒めを守り、イエスの証をもつ人々と戦うとき、彼らは何をするであろうか。(パンフレット 16,20,21)

すべて厳密に見られる

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」（ヘブル 4:12）

真理の宝を委ねられてきた者は他の者を上回る有利さとカルバリーの十字架の上における神の御子の犠牲によってわたしたちのために買い取ってくださった特権をよく考えないのであろうか。わたしたちは自分たちに与えられた光によって裁かれるのであるから、わたしたちの一連の行動の罪を軽くするような言い訳を見つけることはできない。道であり、真理であり、命であるお方がわたしたちの前に置かれている。多くの者は「あなたはわたしをある品性の弱い特徴によって裁くのではなく、わたしの品性を全体として考えなければならない」と言って、言い訳をしようとする。罪人が自分の罪を詫びようとするとき、それを取り繕おうとして、一つでも品性のキリストに似ていない特性をいだし続けるという危険に気づかないとき、わたしたちはいつも心に深い痛みを感じる。わたしたちは自分の意志を主の意志の側に置くべきであり、このお方の恵みによって自分たちは罪から自由になると堅く決心すべきである。罪は律法の違反であり、それが罪であることを示すのは、悪における行為の大きさではない。アダムとエバは善悪を知る木の実を食べることを禁じられていた。そのテストは軽いものであったが、神への不従順の行為がその律法の違反であった。（ビュー・アンド・ワールド 1893 年 8 月 1 日）

偉大な天の芸術家であられるお方は一つの行動、一つの言葉に気づいておられ……また、思想や心の意図ですら忠実に詳しく記述されている。道徳上の品性におけるどの欠点も、天使たちの注視にさらされている。……人間の目にはその動機が隠されていても、エホバのすべてを見ておられる目には識別されている、惑わせる行動はすべて生ける品性の中に書かれている。利己的などの行動もさらされている。（教会への証 1 卷 501）

どの言葉も行動も天の書物の中に焼き付けられている。人間の手は一つの不名誉なしみも消すことはできない。

その驚くべき特権と機会を伴った命はまもなく終わる。品性を発達させるときは過ぎる。（ビュー・アンド・ワールド 1886 年 6 月 15 日）

3月16日

わたしたちは助けを大いに必要としている

「神は心の秘密をも知っておられるからです。」(詩篇 44:21)

神の律法は、外面的な行動と同様に、感情や動機にまで及ぶ。それは心の秘密を明らかにし、闇の中に埋もれている事柄に閃光を放つ。神はすべての思想、すべての目的、すべての計画、すべての動機をご存じである。天の書は、機会があれば犯された罪を記録している。神はすべてのわざを、すべての密かなことと共にさばきにつけられる。ご自分の律法によって、このお方はすべての人の品性を量られる。芸術家がキャンバスに顔の特徴を写すように、各個人の品性の特徴は天の書に写されている。神はすべての人の品性の完全な写真をもっておられる。そしてこの写真をご自分の律法と比較なさる。このお方は人にその生涯を傷つけている欠点をあらわし、彼に悔い改めて罪に背を向けるようにとお求めになる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901 年 7 月 31 日)

イエスに立ち返り、このお方にあなたの問題をすべて告げなさい。キリストはあなたのすべての状況をご覧になり、あなたのすべての誘惑や悲しみをご存じである。敵はあなた自身をより良いものとするまでキリストから離れているようにとほめめかすであろうが、彼のほめめかしに耳を傾けてはならない。なぜなら、もしあなたが神のみ許へ行けるほど良いものとなるまで待つなら、あなたは決して行くことはないからである。あなたはさばきの時まで待つかもしれないが、キリストの許へ行くのにふさわしくなることはない。

「見よ、今は恵みの時、今は救の日である」(コリント第二 6:2)。あなたは今日、キリストの愛の引き寄せる力に明け渡し、ありのままでこのお方の許へ行かなければならない。あなたが行くとき、このお方はあなたを引き寄せ続け、ついにすべての思想がイエスのとりこにされるようになる。敵があなたが罪人であることを責めながら、あなたを自分の救い主から引き離しておこうとすると、彼にあなたには主の許へ行く資格が与えられていることを告げなさい。なぜなら、このお方が「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と言われたからである(ルカ 5:32)。罪人が来ることはキリストにとって歓迎しないことではない。天はイエスを受け入れる人々を受け入れようと待ち構えている。であるから、わたしたちはこのお方の許へ来て、わたしたちがまさに必要としているものを求め、それらを受けると信じようではないか。(パヴル・ユ- 1893 年 2 月 15 日)

わたしの二心を一つにする

「主よ、あなたの道をわたしに教えてください。わたしはあなたの真理に歩みます。心をひとつにしてみ名を恐れさせてください。」(詩篇 86:11)

現代の神の民の大いなる罪は、神がわたしたちに賜る祝福の価値を正しく評価しないことである。わたしたちはこのお方に二心をもって仕えている。なんらかの偶像を抱いている者が多い。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887年4月12日)

わたしたちは終わりの時代の危険のただ中に生存している。そこには思いをそらせ、神から愛情をそらせようとそそのかすすべてのものがある。(教会への証 3巻 403)

神は二心を分かちあうことはない。もし世がわたしたちの注意を奪っているならば、このお方が最上位を統べ治めることはおできにならない。(ユース・インストラクター 1896年12月31日)

あなたは時折外面的に宗教的な義務の遂行に携わることがあるが、あなたの心は働いていない。あなたは時折罪人に警告の一言や真理のための一言をこぼすが、しかし、それは快活な子供としての愛情の奉仕ではなく、あたかも骨の折れる仕事をつくり出す人に捧げているかのような気乗りのしない奉仕である。もしあなたの心がクリスチャンの熱心さに明々と燃えているなら、もっとも達成の難しい義務が楽しく容易なものとなる。多くの人々にとってクリスチャン生活がこれほど難しいその理由は、彼らが二心を持っているからである。彼らは二つの思いを持っているため、彼らのあらゆる道で安定がない。彼らがクリスチャンの熱心さを豊かに吹き込まれているならば、それはつねに、神への献身という結果をもたらし、「わたしはやせ衰える、わたしはやせ衰える」という嘆かわしい叫びの代わりに、魂の言葉は、「主がわたしのためになされたことを聞きなさい」となる。(教会への証 2巻 234)

本当に神に栄光を帰したいと願っている人々は、すべての偶像やすべての罪が発覚することに感謝する。それはこれらの悪を認めて、それらを捨て去ることができるためである。(同上 4巻 354)

キリストのものであるということは、このお方のみ働きに献身することであり、思いと体の肢体一つ一つのすべての力を、このお方のみ旨を行い、このお方の栄光を前進させるために用いることである。それはこのお方のみ言葉に心を開くことであり、このお方の愛の証拠を表すことである。それは栄光の望みであられるキリストが内に形づくられることであり、このお方の比類のない魅力を熟考して、ついに魂の感謝が次の言葉になってあふれることである、「主がわたしのためになされたことを聞きなさい」。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884年1月1日)

3月18日

広い心になる

「あなたがわたしの心を広くされるとき、わたしはあなたの戒めの道を走ります。」
(詩篇 119:32)

キリストはご自分を、低い者、困窮している者、また苦しんでいる者と一体になられる。このお方は幼子らをご自分の腕にいただき、青年たちの標準にまで降りてこられる。このお方の広い愛の心は、彼らの試練や必要を理解することができ、このお方は彼らの幸福を喜ばれた。(福音宣伝者 [1892 年版] 404)

人全体が、すべての分野一容貌において、気質において、言葉において、品性において一主の奉仕はよいものだという決定的な証を担う特権を持っている。……農夫たちが自分の産物を推奨しようとするとき、最もみすばらしい見本を見せたりはしない。女は黄金のバターの最高の塊を持ってくる。男はあらゆる種類の最高の果物や野菜を持ってくる。そして、それらの外観が腕の良い働き人の手柄となるのである。できそこないの見本ではなく、地が産出し得るまに選りすぐりのものを持ってくる。そうであれば、クリスチャンは無私の行為のうちに最も魅力的な果実を表すべきではないであろうか。戒めを守る神の民の実はいのうちに現れるべきではないであろうか。彼らの言葉、彼らのふるまい、彼らの衣服は、ごく最上の品質をもった実のようであるべきである。神は戒めを守るご自分の民を愛される。自分たちの服従を通して、彼らはこのお方の聖なる名に誉れを帰し、彼らのこのお方への愛を証する。しかし、彼らはこれを行っているであろうか。神のみ言葉の聖なる真理を聞く世の人々は、これらの高く聖なる真理を信じると公言している民が、自分たちの同胞の救いのために働くもつと激しく真剣な熱意がないのを見て驚く。わたしたちの信仰と熱意の強さは、わたしたちの道を照らす大いなる光に比例すべきである。信仰、すなわち謙遜に神に信頼する信仰は、それ自体、家庭の中で、近隣の中で、教会の中で現れる。聖霊の働きが妨げられることはないし、妨げることができない。神はご自身を民に御父として、絶対的に信頼できる神として表すことをお喜びになる。教会員はキリストのご品性の尊い特質を持とうではないか。そのとき、神の恵みの宝のゆえに、神への賛美と感謝のうちに言うことがはるかにもっと多くなるであろう。(ザインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 9 月 29 日)

互いの熱い愛

「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいただくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい。」(ペテロ第一 1:22)

わたしたちは終わりの時に近づきつつある。試練は外から十分にあるであろうが、それらが教会の中から来ることのないようにしよう。神の民だと公言する者は、真理のために、またキリストのために自己を否定しなさい。「なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである」(コリント第二 5:10)。神を真に愛するすべての者は、キリストの精神と、自分の兄弟への熱い愛を持つようになる。人の心が神との交わりのうちにあればあるほど、そしてその愛情がキリストに集中すればするほど、この生涯において自分が直面する荒々しきや困難に煩わされることが少なくなる。キリスト・イエスのうちに満ち満ちた男女の高さにまで成長しつつある人々は、品性においてますますキリストのようになり、つぶやいたり、不満に思う気質を超越する。彼らはあら探しをする人になることを忌み嫌う。この時代の教会は、ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰を持つべきである。それは彼らがはばかりことなく、「神はわが助けぬし……です」(詩篇 54:4) と言うことができるようにする。……主はわたしたちに起きて前進せよとお命じになる。教会がどの期間でも自分たちの罪を捨てて、真理を信じ、そのうちを歩んだときには、神は誉れを受けられたのであった。信仰と謙遜な服従には、世が抵抗できない力がある。神の民にかかわる神のみ摂理の目的は、漸進的である。すなわち、クリスチャン品性の完全、聖潔の道における継続的な前進であり、明白な光と知識と神の愛のうちにより高くさらに高く上っていき、まさに終わりの時まで至るのである。ああ、なぜわたしたちはいつもキリストの教理の最初の原則ばかり学んでいるのであろうか。主は、もし教会員がこの危険な生ぬるさから目覚めようと熱心に努めるならば、教会のための祝福を豊かに持っておられる。(教会への証 5 巻 483,484) みことばに従うことによって、要求されている実、すなわち「偽りのない兄弟愛」という実を結ぶ(ペテロ第一 1:22)。この愛は天から生まれ、高尚な動機や無私の行動へと至る。(患難から栄光へ下巻 219)

3月20日

純潔な教会—純潔なわたし

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

教会を清める働きは痛みを伴う働きであるが、もし教会が神のお褒めの言葉を得なければなおざりにしてはならない働きである。悔い改めなさい。なぜなら、あなたはその初めの愛から離れてしまったからである。ここに、キリストの教会員としてのわたしたちの働きが、はっきりと目の前に提示されている。もしわたしたちが不忠実であるならば、命の冠を失うことになり、他の人々がそれを受け取るのである。なぜなら、不忠実な者が落ちた場所を忠実な者たちが埋めるからである。もしわたしたちが主人のために光を輝かせることを拒むならば、またもしわたしたちが神のわざを行わないならば、他の人々が、まさにわたしたちがなしたはずであり、なし得たはずであるが、なすことを拒んだ働きそのものを行うのである。わたしたちが自分たちの使命を果たすことをやめるとき、また燭台が光を反射することを拒み、わたしたち個々人に世のために信任として委ねられた偉大な真理が彼らに与えられないとき、そのとき燭台は取り除かれる。(レビュー・アンド・ハラルド 1887年6月7日)

世は、清めの血がわたしたちのよりどころでない限り、日々魂を汚す。すべての思想がキリストのとりことされるべきであり、すべての怒りの言葉が語られずにいるべきである。欺瞞があつてはならない。利己心や不注意は正しいことからそらすものである。(パイブルユー 1895年7月29日)

主の目はいたるところにあつて、悪も善も見えておられる。このお方はわたしたちのすべての誘惑をご存じである。そしてキリストがそれらに抵抗されたように、わたしたちも抵抗することを期待しておられる。イエスはわたしたちがご自分の純潔の生涯を送ることができるように、わたしたちのために死なれた。…心は清められなければならない。なぜなら、命の泉はこれから流れるからである。意志はその舵をキリストの指令に譲らなければならない。パウロはこれを「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた」新しき人を着ることだと表現している(エペソ 4:24)。罪との妥協は、決して純潔にして聖なる神に受け入れられることはできない。心と品性とふるまいのすべての方針が根本的に変わるのでなければ、改心は本物ではない。この現在の生涯は、ただわたしたちの訓練学校にすぎない。ここでわたしたちは、キリストが来られるときに、しみもしわもその類のものがいっさいない者でいられるように清められなくてはならない。光のうちにある聖徒たちの嗣業を受ける準備をしなければならない。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年7月17日)

聖霊に耳を傾ける

「あなたがたがわたしに対しておこなったすべてのとがを捨て去り、新しい心と、新しい霊とを得よ。イスラエルの家よ、あなたがたはどうして死んでよからうか。わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ。」(エゼキエル 18:31,32)

真の宗教は単純にキリストに従うことである。利己心を表明する宗教には価値がない。なぜなら、罪深い心は本当の要塞だからである。心が無条件に降伏しないかぎり、神の祝福が魂に流れ込むことはできない…そして、新しい命は始まらない。(原稿別冊18 巻 277)

新生によって表されている心の変化は、聖霊の効果的な働きによつてのみもたらされることができる。このお方だけがわたしたちをすべての不純物から清めることがおできになる。もしこのお方がわたしたちの心を形づくり、形成するのを許されるならば、わたしたちは神の王国の性質を識別することができるようになり、わたしたちがこの王国に入る資格を得ることができる前に持たなければならない変化の必要性を悟るようになる。誇りと自己愛は神の御霊に抵抗する。すべての魂の生来の傾向は自己尊重と誇りからキリストの柔和と心の低さに変わることに反対する。しかし、もしわたしたちが永遠の命への道のりを旅したいならば、自己のささやきに耳を傾けてはならない。(ユース・インストラクター 1897 年 9 月 9 日)

勝利するということは、わたしたちが自覚するよりはるかに多くのことを意味する。それは敵に立ち向かい、神に近づくことを意味する。それは、十字架を取り、キリストに従って、生来の傾向に反する事を喜んでなしていくことを意味する。キリストはわたしたちにどのように自己犠牲の生涯を送るかを示すために、天から来られた。このお方の力のうちに、わたしたちは完全を獲得することができる。このお方はわたしたちがこうすることを可能として下さった。そして、このお方が二度目に来られるとき、なぜわたしたちのためのご自分のご目的をわたしたちが果たさなかったのかと、わたしたちにお尋ねになる。毎日、毎時、わたしたちは裁きのために準備しており、自分たちの永遠の運命を決定している。…すべてのことが正確に聖所の金のはかりで量られる。キリスト教とは、キリストの生涯への完全な順応を意味する。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901 年 7 月 17 日)

3月22日

純潔は絶対に必要とされている

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ 5:8)

地におけるすべての会衆の中に、満足していない魂、救いに飢え渴いている魂がいる。夜も昼も彼らの心の重荷は、わたしは救われるために何をすべきであろうか、である。彼らは、自分たちがどのように神の前に義認されることができようかを知ろうと望み、熱心に人気ある説教を聞く。しかし、あまりにしばしば、彼らが聞くのは、ただ耳ざわりの良い話と、雄弁な熱弁だけである。すべての宗教的な集会に、悲しみ落胆した魂がいる。牧師たちは彼らに神の律法を守ることとはできないと教える。「わたしたちの時代には、それは人に対する拘束力はないのです」と彼は言う。「あなたはただキリストを信じなくてはなりません。そうすれば、このお方はあなたをお救いになります。ただ信じなさい」。こうして彼は彼らに自分たちの感情を標準とするように教え、彼らに知的な信仰を与えないのである。その牧師は、おおまじめだと公言するかもしれないが、彼は偽りの希望をもって悩んだ良心を静めようとしているのである。多くの人々は、神の律法を拒否してしながら、自分たちがキリストを信じると公言しているがゆえに、自分たちは天への道の途上にいると考えるように導かれる。しかし、彼らは最終的に自分たちが天の代わりに滅びへの道にいたことを発見するようになる。霊的な毒が、聖化という教理で砂糖がけされ、人々に与えられる。何千もの人々がそれをはやる思いで飲み込むのである。(レビュー・アンド・ヘルト 1881年 3月8日)

人々が神のみ言葉の靈感に関して動揺するのは、ほとんどの場合、そのみ言葉が責める彼らの聖化されていない生活のゆえである。彼らはその譴責や警告を受け入れない。なぜなら、それらが彼らの悪い一連の行動を示すからである。(教会への証 1巻 440)

もし生来の心の感情が抑制されず、信仰という手段を通して受け入れられる神の恵みの聖化する感化力によって征服されないならば、心の思想は純粋でも聖なるものでもない。神のみ言葉の中で目の前に提示されている救いの条件は、理にかなった、明白ではっきりとしたものであり、神のみ旨への完全な一致と、心と生活の純潔に劣る何物でもない。わたしたちは自己をその欲と共に十字架につけなくてはならない。(同上)

中から外へ神を喜ばせる

「主よ、わたしをためし、わたしを試み、わたしの心と思いとを練りきよめてください。」(詩篇 26:2)。

生活の純潔は精練さを与え、それを持っている人々をますます下品さや罪への放縱を避けるように導く。(教会への証 1 巻 441)

イエスの美しさ、いつくしみ深さ、憐れみ、そして愛に思いをとどめることによって、精神的また道徳的力が強められる。そして思いがキリストの働きをなし、従順な子供であるよう訓練され続けていると、あなたは習慣的に、これは主の道であろうか、と尋ねるようになる。イエスはわたしがこれをするのを喜ばれるであろうか。この道はわたしを喜ばせるであろうか、あるいはイエスを喜ばせるであろうか。そうであれば、すべての魂は次の主のみ言葉を覚えていよう。あなたはわたしの密かな罪をあなたのみ顔の光のうちに置かれます。多くの人々は、もしイエスを喜ばせたいのであれば、自分たちの思想と行動の傾向に断固たる変化をもたらす必要がある。わたしたちはめったに、神がご覧になることができるように、自分たちの罪を悲しむべき光のうちに見るができない。多くの人々は自ら罪の道を追求するのに慣れており、彼らの心は、サタンの力の感化の下でかたくなになっている。そして彼らの思想はサタンの邪悪な感化力のとりこにされている。しかし、神の強さと恵みのうちに、彼らが自分たちの思いをサタンの誘惑に逆らって置くと、彼らの思いははっきりとし、神の御霊に感化されることによって、彼らの心と良心は敏感にされる。そして罪はありのままに一はなはだしく罪深いものに一見えるようになる。そのときこそ、密かな罪が彼らの顔の光のうちに置かれる時である。彼らは自分たちの罪を神に告白し、それらを悔い改め、罪を恥じるようになる。(SDA パイプ・ドクメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1150)

わたしたちは勝利する働きにおいて、魂のすべてのエネルギーを働かせ、イエスを仰いで自分自身ではなし得ないことをする力を求めるべきである。白い衣を着てキリストと共に歩む人々によって、罪は容認され得ない。汚れた衣は取り除かれ、キリストの義の衣がわたしたちの上にならなければならない。悔い改めと信仰によって、わたしたちは神のすべての戒めに従順をお捧げすることができるように、このお方のみ前に傷のないものとなる。神の承認を受けるようになる人々は、今、自分たちの魂を悩ませ、自分たちの罪を告白しそして自分たちの仲保者なるイエスを通して熱心に許しを嘆願している人々である。(教会への証 5 巻 472)

3月24日

純潔な言葉と思想

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19:14)

わたしたちは互いに最も厳粛な関係を持ち続けている。わたしたちの感化力はつねに魂の救いのためか、それに反するか of のいずれかである。キリストと共に集めているか、広く散らしているかのいずれかである。わたしたちは、他の人々を正しい道からそらせることがないように、へりくだって歩み、まっすぐな道を作るべきである。わたしたちは思想と言葉とふるまいに最も厳密な高潔さを維持すべきである。神がわたしたちの密かな罪をご自分のみ顔の光におかれることを覚えていよう。最高の人をさえ悩ませるような、サタンによってほめかされ引き起こされる思想や感情がある。しかし、もしそれらを心に抱かなければ、もしそれらが忌むべきものとして拒絶されるならば、魂が罪によって汚されることはなく、彼らの感化力によって、他の人が汚されることはない。ああ、わたしたちが一人びとり、周囲の人々にとって、命から命へいたる香りとなるように！神の聖なる真理のより深い認識が、大いに必要とされている。もしすべての人がメッセージの厳粛さと重大さを悟るならば、今は不注意に犯されている多くの罪がわたしたちの間で止むはずである。あまりにもしばしば、通俗的な思想やコミュニケーションに聖なる真理の主題が混ぜあわされているのではないであろうか。これがどこでなされようと、標準は低くされる。あなたの模範は、他の人々が真理を軽く見るように導く。そして、これは神の御目に最大の罪の一つなのである。神が承認し、祝福して下さるような生き方をするのは、すべての人の特権である。あなたは時々刻々、天との交わりのうちにいることができる。あなたが罪の責めと闇の下にいてもいるのは、あなたの天父の御心ではない。あなたが自分自身を低めるのは神にとって喜ばしいことではない。あなたは、人と天使の前で、自分自身の良心が認めるような生き方することによって、自尊心を培うべきである。あなたが頭をうなだれて、心を自己の思いでいっぱいにして歩むのは、真の謙遜の証拠ではない。イエスの許へ行き、清められ、そして律法の前に、恥も良心の呵責もなく立つことは、あなたの特権である。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1888 年 3 月 27 日)

食欲に勝利する

「わたしに知恵を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。わたしをあなたの戒めの道に導いてください。わたしはそれを喜ぶからです。わたしの心をあなたのあかしに傾けさせ、不正な利得に傾けさせないでください。」(詩篇 119:34~36)

誇り、自己愛、利己心、強欲、食欲、世の愛、憎しみ、疑い、嫉妬、邪推はみな、永遠に征服され、犠牲にされなければならない。キリストが現れるとき、それはこれらの悪を正し、このお方の来臨のための道徳的な適性を与えるためではない。この準備はみなこのお方が来られる前になされていなければならない。わたしたちが救われるためにはどうしたらよいか、わたしたちが神に承認されるよう自らを示すためには、わたしたちのふるまいはどうあるべきであろうか、これが思想と、研究の主題、そして熱心な問いであるべきである。つぶやき、非難し、いらだちにふけり、自分の周りにいる人々を傷つけ、またそうすることによって自分自身の魂を傷つけるよう誘惑されるとき、ああ、深く熱心な切なる次の問いがあなたの魂から出るように。わたしは神の御座の前に傷のない者として立つであろうか。傷のない者だけがそこにいるようになる。だれ一人として自分の心が地上のごみでいっぱいになっているときに天に移されることはない。道徳的な品性におけるすべての欠点がまず矯正され、キリストの血潮の清めによってすべてのしみが取り除かれ、すべての醜く愛せない品性の特徴は、克服されなければならない。(教会への証 1 巻 705)

神のみ事業の前進と建設のための道が、利己心、誇り、食欲、浪費、そして顕示欲によって妨げられている。教会全体が、働きのすべての分野において担うべき厳粛な責任を負わされている。もし教会員がキリストに従うならば、彼らは見せびらかしの傾向、衣服への愛着、優雅な家や高価な家具への愛着を否定することであろう。はるかに大きなへりくだりとはるかに大きな世からの区別がなくてはならない。さもなければ、神はわたしたちの携わる働きの地位や性質が何であろうと、わたしたちをお受け入れにならない。……キリストから学び、天の大君が歩まれた自己否定の道を謙遜に歩むことがすべての人の義務である。(同上 7 巻 296,297)

3月26日

神のみ言葉によって救出される

「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。」(詩篇 119:11)

わたしたちは神の口から出る一つ一つの言葉を信じることによってのみ、勝利することができる。わたしたちはサタンの詭弁や魔力によって打ち負かされることがないように、何と書かれているかを知らなければならない。ずるがしこい敵は、自分の行った道にわたしたちを従わせようと導くようなやり方で、わたしたちの思いに働きかけ、わたしたちが偉大さや世の誉れや卓越さを夢見るようにさせる。もしわたしたちが彼の魔力によってわなにかけられたなら、イエスのみ名によって彼の力を譴責し、即刻サタンと絶縁しようではないか。あなたの飲んだ物がどのような性質のものであろうと、サタンがあなたにイエスを犠牲にして自己を高めさせようと導く方法が何であろうと、神聖な恵みの力を通して惑わしから逃れ、のぼせ上がりを避けなさい。わたしたちは次のように問う、「真理に従うべきではないと、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか」(ガラテヤ 3:1 英語訳)。サタンがかけようとする恐ろしい魔術からの救出を神に叫び求める人々は、聖書を高く評価する。わたしたちの唯一の安全は、聖書全体を受け入れることにあり、切り離された一部だけを信じるのではなく、真理全体を信じることにある。もしあなたが書かれている一つのみ言葉を軽視するならば、あなたの足はすべる砂の上にあるのである。聖書は神聖な伝達であって、あたかも天からわたしたちに話しかけるのが聞こえる声のように、まさに魂へのメッセージである。わたしたちは永遠の現実を学ぶことができるように、なんという畏敬と敬神とへりくだりをもって聖書を開き、探るべきであろうか、サタンの魔術が破られ、聖書がわたしたちにとって神の生けるみ言葉となると、わたしたちは義務についての自分たちの確信に従っても安全である。なぜなら、わたしたちが目覚めて祈るなら、その確信は神の御霊の靈感を受けるからである。すべての者は、神のみ言葉こそ永遠のみ座のように永続するものであることを知って、聖書を研究しよう。もしあなたがへりくだって聖書研究にとりかかり、導きを求めて熱心に祈るならば、神の御使たちがあなたに生きた現実を開いてくれる。そしてもしあなたが真理の規則を大事にするならば、それらはあなたにとって、サタンの誘惑、惑わし、魔力に対する火の城壁となる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 9 月 18 日)

正直な善行

「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」(詩篇 15:1,2)

わたしたちには、神のみ言葉の教えと訓告と招きと約束がある。それなのに、聖なる律法の一点一画から離れることによって、自分たちの魂を危険に陥れるのであろうか。神はわたしたち一人びとりに、次のように言われる「わたしはあなたのわざを知っている」(黙示録 3:15)。(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 3 月 27 日)

[黙示録 3:5 引用]。もしわたしたちが勝利者になりたいならば、神に反するものを何か抱いてはいないか確かめるために、自分たちの心を探らなければならない。もし抱いているならば、わたしたちはここに約束されている白い衣を着ることができない。もしわたしたちが、聖徒たちの義である白い亜麻布をまとうて神のみ前に立ちたいならば、わたしたちは今勝利するという働きをしなければならぬ……神の御使たちは道徳的価値を量っている。彼らは今生きている人々の名が命の書に残ることができるかどうかを調べるために、彼らのうちの品性の発達を見張っている。わたしたちの品性の衣を洗い、それらを小羊の血によって白くするための恩恵期間がわたしたちに与えられている。だれがこの働きをしているであろうか。だれが自分自身から罪と利己心を分離しているであろうか。わたしたちのうちの多くの人々のために、なされるべき大きな働きがある。わたしたちの思いと品性が、キリストの思いと品性にならなければならない。利己心がわたしたちの存在そのものに織り込まれている。それは嗣業としてわたしたちにもたらされ、多くの人々によって貴重な宝として大事にされてきた。神のための特別な働きは、自己と利己心が克服されないかぎり、何一つなされ得ない。多くの人々にとって、自分自身にかかわることはすべて、非常な重要性を持っている。自己が中心であり、すべてのものはそのまわりを回っているかのようである。キリストが今地上におられたとしたら、次のように言われることであろう。「沖へこぎ出し…なさい」(ルカ 5:4)。それほど自己にかまうものとなってはならない。あなた自身と同じように尊い人々が何千と生きている。そうであれば、あなたはなぜ、自分の周りに自分の上着を巻きつけて岸边に沿って進むのか。義務と有用性に目覚めなさい!もしあなたが沖へこぎ出し、あなたの網を下ろすならば、主人であるお方は魚を集めてくださる。そしてあなたは神の力強い働きを見るのである。(ヒスリカ・スッチ 138,139)

3月28日

わたしたちの心のうちにあるべき神の律法

「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」(詩篇 40:8)

わたしたちは、神の御旨に自分たちの意志を一致させながら、愛のうちに歩み、働くべきである。このようにする人々について、主は次のように宣言なさる、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心書きつけよう」(ヘブル 8:10)。神は、この変化の働きにおいて力強く、全能のお方である。このお方の聖霊によって、ご自分の律法を心書きつけてくださる。(レ・ユー・ア・ド・ヘルト 1902年6月10日)

神の律法が心書きつけられると、それは純潔で聖なる生活のうちに表されるようになる。神の戒めは死んだ文字ではない。それらは霊であり、命であって、すべての想像や思想でさえもキリストのみ旨に従わせる。それらが書きつけられた心は、油断することなく守られる。なぜなら、そこから命の泉が流れ出るからである。イエスを愛し、戒めを守る人々は、悪の様子でさえも避けようとする。そうするように強いられるからではなく、彼らが純潔な模範を模倣しているからであり、自分たちの心書きつけられた律法に反することはすべて非常に嫌うからである。彼らは自己満足を感じることなく、彼らを罪と不純から守ることのできる唯一の神に信頼を置いている。彼らを取り巻く雰囲気は、純潔である…この終わりの時代に生きている人々の前にある危険は、純潔な宗教の欠如であり、心の聖潔の欠如である。神の改心させる力が彼らの品性を変えることにおいて働いてこなかった。彼らはユダヤ国家がしたように、聖なる真理を信じると公言するが、真理を実践しないことにおいて、聖書や神の力について無知なのである。神の律法の力と感化力はいたるところにあるが、魂の中にはなく、魂を真の聖潔へと新たにすることがない。(同上 1887年5月17日)

神の律法が心書きつけられている人は、人に従うよりは神に従い、神の戒めから少しでもそれるよりは、むしろすべての人に従わない。真理の靈感によって教えられ、神の一つ一つの言葉によって生きるためのよい良心によって導かれる神の民は、自分たちの心書きつけられたこのお方の律法を、自分たちが認め、従うことに同意できる唯一の権威として認めるようになる。神聖な律法の知恵と権威が最高なのである。(教会への証 1巻 361)

心を尽くした献身

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。」(申命記 6:5)

神はわたしたちに対して真剣であられる。もし心が純潔であれば、行動の純潔さと目的の高尚さが、なされるすべての働きのうちにある。すべての思いは清められ、すべての心が純潔にされなければならない。かつて死すべき人間に与えられた中で最も尊い光を受けてきた民によって罪が許容されることはないことを、すべての人が理解しなければならない。ただほんの短い間だけしかない。それから来るべきお方が来られ、遅くなることはない。自分の罪にしがみつくことを選ぶ人々は滅びなければならない。しかし、神は永遠のために徹底的な働きをなすすべての人に、深い同情を持っておられる。(世界総会冊子 1903 年 3 月 16 日)

もし心が純潔であれば、わたしたちは恵みのみ座にはばかりことなく行くことができる。神がわたしたちのことを聞いてくださることを信じ、わたしたちはあたかもこのお方が聞かれたことを知っているかのように行動するのである。これが信仰である。もしわたしたちが特別な感情を待つならば、失望することであろう。感情は信仰と何の関係もない。受け入れられる条件は、わたしたちが世から出てきて分離すること、密かな罪を捨てること、そしてどれか一つでも神のご要求を知りながら犯すことをやめることである。もし各自が自分の特殊な気質や自分自身のやり方を通してという願望をもって天に行くとしたら、一体そこはどんなところになることであろう! そのような人々は、天においてさえ、もしいつも自分たちがやりたいようにできなければ、どんなに不満に思うことであろう! 正しいことを愛する愛は、地上にいる間に、わたしたちに織り込まれなくてはならない。そのとき天の光がもたらされ、わたしたちの心はイエスに開かれ、わたしたちは神のみ旨に完全に服するのである。イエスは完全な模範をわたしたちに残してくださった。それを注意深く研究しよう。そしてわたしたちが研究し祈るとき、天との密接なつながりのうちに入るのである。わたしたちはイエスのようになろうと、もっと一生懸命努力しないのであろうか。わたしたちはもっと祈らないのであろうか。わたしたちは他の人々のためにもっと熱心に努力しないのであろうか。怠慢にやり過ぎず時間はない。天に入るすべての人は、自分の働きの結果として、イエスに紹介する何人かの魂がいる。「よくやった」という言葉が、よくやらなかった人々に語られることは決してない。わたしたちは、もし忠実な者に約束されている報いを受けなければ、忠実でなければならない、また活動的でなくてはならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 3 月 16 日)

3月30日

心を尽くして魂を勝ち取る

「わたしは心をつくして主に感謝し、あなたのくすしきみわざをことごとく宣べ伝えます。」(詩篇 9:1)

ギデオンの軍勢の経験には、わたしたちのための教訓がある。働きに心を込めて、熱心であったために小川の岸で飲もうとひざまずくために立ち止まらず、戦いに急ぐ道すがら自分たちの手で水をすくった者たち、彼らが神に用いられた人々であった。飲むために入念な準備をした者、そのために時間を取った者は、自分たちの家に送り返された。主なるイスラエルの神は、彼が熱心であるか、魂の重荷を心に負っているかどうかを調べるために、すべての働き人をご覧になっている。神はご自分の僕たちがこれらの生ける関心事を自分たちの指先で触るか、あるいは、自分たちの力を尽くしてつかむかを見ておられる。もしすべての人が、「スコットランドをください。さもなければ死にます!」と叫んだときに感じたノックスの関心一退けられることのない神との格闘一があるならば、主は彼らの努力と共に働いてくださり、彼らの労働の報いとして魂を与えてくださる。彼らは自分たちの成功のために得意になることもなく、一瞬たりとも他のだれかが自分に与えられるべき賞賛を受けるのではないかと恐れることもない。かえって、彼らは救われた魂のために神に感謝するあまり、彼らの心にも唇にも、夜となく昼となく賛美がある。神がご自分のみ事業において力強いものとなさるのは、このような働き人である。わたしたちはあまりにも信仰がなさすぎ、あまりにも自分たちの見解において狭すぎる。ギデオンの軍勢が勝ったのは、彼らの数のゆえではなく、生きた信仰によって神の特別な指示に従ったからであった。もしわたしたちが狭い計画をたてるなら、非常にわずかなことしか成し遂げられないのを見ることになる。…神はわたしたちがたえず、自分たちの周囲にいる人々はキリストの血で買われたものであり、これらの魂が救われるか失われるかはわたしたちのふるまいや働き方に大いに依存していることを悟ってほしいと望んでおられる。わたしたちは偏狭者ではなく、改革者であることを常に表すべきである。(パシフィック・ユニオン・レオダー 1905年6月27日)

わたしたちはいつでも、どこでも、わたしたちが神のいつくしみ深さを感謝していることを表現することがわたしたちの義務であることを決して忘れてはならない。わたしたちがしたり、話したりするすべてのことにおいて、自分たちの主に誉れを帰さなければならない。わたしたちはキリストに魂を勝ち取る主の使命者とならなければならない。(原稿別冊3巻134,135)

生ける愛の手紙

「あなたがたは自分自身が、わたしたちから送られたキリストの手紙であって、墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板ではなく人の心の板に書かれたものであることを、はっきりとあらわしている。」(コリント第二 3:3)

キリストがあなたと共に宿られるとき、そしてあなたがこのお方と共に宿るとき、あなたは過去数年に述べてきた以上に、述べることがある。あなたは人の心の板を刺し通すようなメッセージ、すなわち関節と骨髄とを切り離し、心の思想と意図を見分けるメッセージを持つようになる。もしわたしたちが目の前にある悩みの時を通過できる知恵と知識を持ちたいと思うならば、日毎に信仰を働かせることによって、それを集めていなければならない。わたしたちはあなたが悩みの時について心配するように願っているのではない。そうではなく、あなたの働きのあるところでただちにそれに取りかかり、それを日々忠実に行ってほしいのである。あなた自身の教会に、近隣に、助けを必要としている魂がいる。尊い種を持って出て行きなさい。すべての軽率さや軽薄さはこの厳粛な働きにおいてわきに捨てなければならない。征服され、悔いた心をもって、涙を流して出て行きなさい。そうすれば疑いなく、あなたは再び喜び、束を携えて戻ってくる。あなたは栄光に満ちた成功を得る。あなたはキリストとの共労者となることができる。排他的になってはならない。交わるのが楽しいと思う数人を求めて、他の人はみな自分自身で自らを世話するよう放っておいてはならない。あなたはある人に弱さを認め、他の人には愚かさを見るかもしれないが、彼らから離れて、あなたがほぼ完全だと思う人々とだけ交わってはならない。あなたがさげすむ魂こそ、まさにあなたの愛と同情を必要としているのである。弱い魂が一人で苦闘し、あなたの助けや祈りなしに自分自身の心の感情と格闘するままに放っておいてはならない。あなたも誘惑に陥ることがありはしないかと反省しなさい。もしあなたがこれを行うなら、神はあなたをあなた自身の弱さのうちに放っておかれぬ。このお方の御目にあなたが責める人々の罪よりも大きい罪があなたにあるかもしれない。離れて立ち、次のように言うてはならない、「わたしはあなたよりもきよい」(イザヤ 65:5 英語訳)。キリストは人類にご自分の神聖な腕をまわしておられる。(レビュー・アソド・ハルド 1889年6月11日)

Good Way Series 研究 1-2



黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (II)

II- 分岐点であったミネアポリス

1888 年は、SDA 教会にとって危機的な時を画しました。この年及び続く数年間に、教会は命に係わる重大な問題について選択し、それによって自分の運命を決定するように求められました。

1. 光の始まり (1888 年)

主のしもべは次のように記しました：

「わたしは民のために働きがなされなければならないこと、さもなければ多くの人々が全地をその栄光で明るくするために天からつかわされたみ使いの光を受ける準備ができないことを知っている」(牧師への証 468, 469)。

「テストの時がわたしたちに迫っている。なぜなら、第三天使の大いなる叫びが、罪を許す贖い主キリストの義の啓示のうちにすでに始まったからである。これが全地をその栄光で満たす御使の光の始まりである」(セレクトド・メッセージ 1 巻 363)。

「主はその大いなる憐れみのうちにワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、ご自分の民に最も尊いメッセージを送って下さった。このメッセージは世の前に上げられた救い主、全世界の罪のための犠牲を、さらに顕著に示すものであった。それは保証人を信じる信仰を通しての義認を提示した。それは、キリストの義、すなわち神のすべての戒めに対する従順のうちにあらわされたキリストの義を受けるようにと民を招いた」(牧師への証 91, 92)。

2. ごくわずかなものだけが光を認めることができる

「わたしたちは終わりの時代に生存している。そして最後の滅亡を目撃することになる世代は、急ぎつつある神のさばきについて警告されないまま取り残されてはいない。使徒は次のように述べている〔黙示録 18:1-5 引用〕。全地はこのメッセージの栄光で明るくされなければならない。そして心と思いはそれを受け入れることによって、王の王の来臨のために準備されるのである。しかし、この恵み深いメッセージは、ユダヤ国家によってメシヤのメッセージが拒まれたように、公言するクリスチャン世界によって、全般的に拒絶されるであろう。ただわずかな者だけが真理の証を受け入れる。なぜなら、サタンが神の真理の受け入れに反対するためにもたらすあらゆる感化力が用いられるからである。…この時代のために命に関わる最も重大な問題は、「だれが主の側にいるのか。だれが世に真理のメッセージを伝えることにおいて、〔黙示録 18 章の〕天使と結合するのか。だれがその栄光で全地を満たす光を受けるのか」である。自分たちの持っている光を大切にする人々は、さらに多く受けるようになる。増し加わる光が、やわらげ、征服するキリストの恵みに屈服する魂のまわりに輝くようになる。そして光を愛する人々は、サタンの欺きから救われるのである」(レビュー・アンド・ヘラルド 1889 年 11 月 5 日)

「二年間、わたしたちは民に、来て、光とキリストの義に関する真理を受け入れるようにと強く訴えてきた。そして彼らは来て、この尊い真理をつかむべきか否かを知らなかった。…彼らは救い主が中に入ることを許さなかった」(レビュー・アンド・ヘラルド 1890 年 3 月 11 日)

「自分たちのおとずれの時を知っている人々はなんと少ないことであろう!…真にへりくだり、献身し、神を恐れるしもべが、なんとわずかしきかないことであろう…

今日、心から神に仕えている人々はわずかしきかない。わたしたちの会衆を構成している大部分は、霊的に不義と罪のうちに死んでいる。…彼らはますます真理の尊さや価値に対して知覚力がなくなっている。なぜなら、彼らは神の御目に喜ばれるこれらの事柄を実践することを怠っているからである。譴責と警告のかきたる証は彼らを目覚めさせない。神から人間の唇を通しておとずれるもっとも美しい旋律—信仰による義認とキリストの義—は、愛と感謝という応答を彼らから引き出さない。天来の商人は彼らの前に信仰と愛という最も高価な宝石を並べ、

このお方の御声はご自分から「火で精練された金」と「身に着けるように、白い衣」、そして「見えるようになるため、目に塗る目薬」を買うようにと彼らを招くが、彼らはこのお方に対して自分たちの心を鋼のようにし、自分たちのなまぬるさを愛と熱心さに変えない。かえって自己満足のうちに自分たちの手を組んで告白するが、真の信心の力を否定する。もし彼らがこの状態を続けるならば、神は彼らを忌み嫌って拒まれることになる。世と神を同時に賛美することは、神にまったく受け入れられない。目覚めよ、目覚めよ、永遠に遅すぎる前に」(レビュー・アンド・ヘルド 1893 年 4 月 4 日)。

3. 時間制限がある

忠実なまことの証人のラオデキヤに対する勧告(黙示録 3:18-20)は、まだ望みがある間に、状況の治療法を提供していました。ホワイト姉妹は次のように記しています：

「A.T. ジョーンズと E.J. ワゴナーによってわたしたちに与えられているメッセージは、ラオデキヤ教会に与えられている神のメッセージである。だれでも真理を信じると公言しながら、他の人々に神から与えられた光線を反映しない者はわざわざいなるかな」(原稿 24, 1892 年)

「彼らの状態〔なまぬるい人々〕は、まだ癒すチャンスがある。そしてラオデキヤへのメッセージは励ましに満ちている。なぜなら、背信した教会はなお、信仰と愛という金を買うことができ、自分の裸の恥をさらさないようにキリストの義の白い衣を持つことができるからである」(レビュー・アンド・ヘルド 1894 年 8 月 28 日)

「兄弟たちよ、あなたがたが、断固として改革するために努力しない限り、あなた自身のともしびは、ゆらめき暗くなっていき、ついには闇の中に消えてしまうであろう。『そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい』。今提供されている機会は短いかもしれない。もしこの恵みと悔い改めの季節がいかされずにやり過ごされてしまうなら、次の警告が与えられている。『わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』。…しかし、このお方の御霊はいつまでも争うことはなさない。このお方の忍耐が待つのももう少しだけである」(教会への証 5 巻 612 (1889 年))

「神が人々の目の前に目隠しをおいたり、彼らの心をかたくなにしたりなさるのではない。神がご自分の民の過ちを正し、安全な道へ導くために送られるが、彼

らが受け入れることを拒む光、それが彼らの思いを盲目にし、彼らの心をかたくなにするのである。彼らは光から向きを変えて、自分自身のともした火花の中をかたくなに歩むことを選ぶ。そして主は明確に、彼らは悲しみのうちに横たわるようになると宣言しておられる。主が送られた一筋の光が認められないと、霊的な知覚力が部分的に麻痺し、二番目の光が表されても、それほど明確に識別できない。こうして闇は絶えず増していき、ついに魂にとって夜が訪れる。キリストは言われた、『その暗さは、どんなであろう』。…

主が光のうちに歩むことを拒み、自分たちの不信と神のメッセージを拒んだ罪を告白することを拒むことによって神から離れたイスラエルの子らの歴史が、この時代のための真理を信じると主張している民の経験となることを禁じて下さるようにならねばならぬ。なぜなら、もし彼らが警告と訓告に直面した時にイスラエルの子らのようにするならば、終わりの時代においても、イスラエルの子らにおとずれした同じ結果が続くことになるからである。…神はご自分の計画を実行なさるのに急いではおられない。なぜなら、このお方はとこしえからとこしえの方だからである。このお方は受けてほしいと望まれる人々に、光を与え、ご自分の真理をより十分に明らかになさる。こうして今度は彼らが警告と励ましの言葉を取り上げて、それらを他の人々に伝えることができるためである。もし名声と知性を持つ人々がこれをなすことを拒むなら、主は他の器を選ばれ、より劣った者とみなされている人々を尊ばれるであろう」(ビュー・アソド・ヘラルド 1890 年 10 月 21 日)

「主は、わたしたちの背信を見てこられた。そしてこのお方はご自分の民に対して論争しておられる。…彼らの現在の状態において、キリストのご品性を表すことは不可能である。…彼らはメッセージを受け入れることを拒んできた。彼らは光の下へ来ることを拒んできた。彼らの行いが譴責されるからである。…悔い改めない者について次のように言われなければならない時が来る。『エフライムは偶像に結びつらなかつた。そのなすにまかせよ』。教会は自分がどこから落ちたかを認めるであろうか。…教会員が、二心で命のないお行いではなく熱心な行いによって自らを神のみ前にへりくだらせるとき、主は彼らをお受入れになる。しかし、このお方は、『悔い改めなければ、わたしはあなたのところにすみやかにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』と宣言なさる。この警告はどれくらい

の間、拒まれるのであろうか。教会は…神が探されるときに葉の他は見つけられない実を結ばない木のようなものである。わたしたちの教会にとって厳粛な思想である！実に、すべての個人個人にとって厳粛である！驚くばかりなのは、神の忍耐と寛容である。しかし、『悔い改めないならば』それは尽きる。教会、わたしたちの施設は、弱さから弱さへと進んでいる。『自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っている』一方では、冷たい形式主義から死の状態へ進んでいるのである』（ビュー・アンド・ヘラルド（号外）1890年12月23日）

「『そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』。これらの言葉は教会にどのような効果を持っているのであろうか。神の民だと公言する者たちは、『もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしは〔あなたが安逸で不注意で霊的な怠慢に満ちているときに〕すみやかにあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』という言葉の重要性を理解してきたのであろうか。警告がもはや神の民におとずれなくなるとき、神の御霊の優しい訓告が静まるとき、天来の照明であるろうそくがもはやかれらの道を照らさないとき、彼らは自分自身の火のろうそくをともし、自分自身のつけた火花の中を歩むままに取り残されるであろう」（ビュー・アンド・ヘラルド 1893年4月4日）（括弧書きは原文のまま）

前述の引用から、わたしたちはキリストとその義の提示によって、教会は次のものが与えられる場所に導かれたことがわかります。

- (1) 自分の運命を決める短い時
- (2) いずれかを決定する機会：

- ・本物のリバイバルと改革、もしくは
- ・自分の燭台を取り除かれる

もし教会が自分に送られた特別な助けを受け入れるならば、教派として差し迫った惨事を転じるのに遅すぎることはないことでしょう。しかし、もし教会がリバイバルと改革のために与えられた機会をいかにさないならば、その燭台は取り除かれたことが、神の警告や訓告が止むことによって示されるでしょう。

いでもおられませんでした。神さまは創造における次の偉大な段階のために今や準備ができたことをご存じでした。

聞いてごらん下さい!このお方がまた語っておられます、「神はまた言われた、『天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ』。そのようになった。神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神は見て、良しとされた。」

とつぜん、大海はわきかえり、あわ立ち始めます。大きなゆれがあり、その深みからはりの先ほどの土地が現れたときに、振動がありました。すみやかに大陸と島々がかたちをなしました。山々や丘々が上に向かって動き、水はあわ立つ洪水のうちに、そのわきから乾いていきました。

なんという夜でしょう!なんという日でしょう!

3 日目に朝が近づくと、光がもうひとたび、明々とした雲をつきぬけて輝きます。そこにはもはや海ばかりでなく、乾いた大地がのびています。それは美しい地であり、池や川、滝があり、その向こうには海があります。

なんとすばらしいことでしょう!昨日はただ大海ばかりでした。今日は美しい世界です。今やわたしたちはたしかに神さまが思いのうちに大計画を持っておられることがわかります。このお方は何かを築いておられるのです。ご自分の愛する人のために家を建てておられるのです。

大根ポタージュ

■材料

大根	500 g
カシューナッツ	半カップ
水	半カップ
塩	小さじ1
顆粒昆布だし	小さじ1

■作り方

1. カシューナッツをお湯に浸して柔らかくします。
2. 大根をひたひたの水でやわらかく煮ます。
3. カシューナッツと水をフードプロセッサーに入れて、クリーム状になるまで回します。
4. やわらかくなった大根をミキサーで回し、塩と昆布だしを入れて味をととのえます。
5. 最後にクリーム状になったカシューナッツを加えて、全体をよく混ぜます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第6話

大いなる準備(II)

神さまがまず、大気をおつくりになったこと、つまり、光をつくられた直後に、そして他のものを何かつくる前におつくりになったことは、なんと賢明であったことでしょう!もうしそうでなければ、恐ろしいあやまちとなったことでしょう。このお方のすばらしいご計画全体がそこなわれたことでしょう。しかし、神は間違いをおかされませんでした。そして神様がどのように世界をつくられたかを考えるとき、パウロと同じように言いたくなります、「ああ深いか、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」。

そして今や地球の第二日目が終わろうとしていました。美しい白い雲が色を変えつつありました。黄金、オレンジ、赤、紫が入りまじってゆっくりとやみの中に消えていき、夜になっていきました。

2日目が過ぎ、6日のうちの2日がなくなりました。そして見えるのはただ大海、みどりの果てしない大洋だけでした。地もなく、創造された生き物もなく、水しかありませんでした。北、南、東、西、ただ水、水、水ばかりで、あてどもなく絶え間ない波がうねり続けていました。

三日目の夜の闇の中で、神さまは大海からの水気をたっぷり含んだ霧



を立ち上げておられるだけのように見えました。しかし、このお方はもっとよくわかっておられました。このお方は短気ではありませんでした。急

(45 ページに続く)